

第2回安芸区まちづくり懇談会 会議要旨

1 開催日時 令和元年（2019年）6月27日 木曜日 午後3時30分～5時30分

2 開催場所 安芸区役所3階 第1会議室

3 出席者

(1) 委員（17人中13人出席）

ア 学識経験者

池本座長

イ 各種団体の関係者

金月副座長、金子委員、上垣内委員、佐々木委員、中島委員、西井委員、西佐古委員、松田委員、森重委員、森本委員、門前委員

ウ その他安芸区長が必要と認める者

稲垣委員

(2) 事務局（安芸区役所）

安芸区長、副区長、厚生部長、農林建設部長、下水道担当部長、区政調整課長、地域起こし推進課長、生活課長、維持管理課長、地域起こし推進課職員

4 議題

(1) 安芸区のまちづくりの方向性（事務局修正案）について

(2) 地域における住民主体の取組に関する概要・活動事例について

(3) 地域課題の解決に向けた取組・地域資源を活用した取組例の検討について

(4) まちづくり活動に関する効果的な行政支援について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者

(1) 一般傍聴者 0名

(2) 傍聴者（報道関係） 0名

7 会議資料

(1) 議事資料

議事資料1 安芸区のまちづくりの方向性（事務局修正案）について

議事資料2 地域における住民主体の取組に関する概要・活動事例について

議事資料3 安芸区のまちづくりの方向性と主な推進事業の関連表

議事資料4 アクションプラン（素案）

議事資料5 小さなエリアマネジメントについて

議事資料6 協同労働について

(2) 参考資料

まちづくり活動等に対する主な支援制度のパンフレット

- ・ 区の魅力と活力向上推進事業補助金
- ・ “まるごと元気” 地域コミュニティ活性化補助金
- ・ 60歳からの輝き方（協同労働）

8 会議要旨

次のとおり議題審議等を行った。

(1) 議事

ア 安芸区のまちづくりの方向性（事務局修正案）について

議事資料1に基づき事務局（米谷地域起こし推進課長）から説明を行い、安芸区のまちづくりの方向性（事務局修正案）について承認された。

イ 地域における住民主体の取組に関する概要・活動事例について及び地域課題の解決に向けた取組・地域資源を活用した取組例の検討について

議事資料2、3に基づき事務局（米谷地域起こし推進課長）から説明を行った。

ウ まちづくり活動に関する効果的な行政支援について

議事資料4、5、6に基づき事務局（米谷地域起こし推進課長）から説明を行い、「地域課題の解決に向けた取組・地域資源を活用した取組について（お願い）」（当日配布資料）で、7月26日（金）までに取組の提案について回答していただくように依頼した。

(2) 主な質疑・意見

ア 安芸区のまちづくりの方向性（事務局修正案）について

（佐々木委員）

方向性とは関係ないが、新聞に海田町のまちづくり実施計画5か年計画（第4次海田町総合計画 後期基本計画 実施計画）が出ていた。隣接町との連携で、海田町の実施計画を参考にしているのか。

（事務局 山本安芸区長）

海田町の総合計画（第4次海田町総合計画 後期基本計画 実施計画）は正直、見ていなかった。海田町との連携については、1区4町の連携事業ということで、さまざまな分野で一緒にやっている。後で議論をするが、アクションプランの中に取り入れることもできるので、海田町の計画も見ながら、必要があれば修正をしていきたい。

（金子委員）

基本計画には平和都市ヒロシマというのがあるが、安芸区においてはその点が薄いという印象がある。例えば、小規模でもよいので、折り鶴の塔を各学校に置いて、8月6日にそこで平和学習をするということを盛り込むことができないかと常々思っている。

（事務局 山本安芸区長）

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現というのは、広島が希求する取組で、基本計画に市全体の求める方向性として記載されている。安芸区においては、まちづくりの方向性の1番目の「安全・安心で地域が支え合いながら」と、2番目の「豊かな自然と共存したやすらぎのあるまちづくり」に広

い意味で平和を希求する心として含まれると考えている。提案していただいた平和学習については、アクションプランに記載する取組として、御提案をお願いしたい。

(池本座長)

事務局から補足する説明があるか。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

今説明した事務局修正案を「安芸区のまちづくりの方向性」の最終案としたい。この内容について御意見があるか。

(特に修正意見は無し。)

イ 地域における住民主体の取組に関する概要・活動事例について及び、地域課題の解決に向けた取組・地域資源を活用した取組例の検討について

(佐々木委員)

議事資料4の1ページに記載されている「安芸区まちづくり支援センター」は何を指しているのか。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

「安芸区まちづくり支援センター」という機能を各区の地域起こし推進課が有しており、具体的には主に物品の貸付等を行っている。

(事務局 山本区長)

安芸区役所の2階に来てもらえばわかるが、地域起こし推進課の看板の下に、「まちづくり支援センター」と括弧書きしてある。わかりにくくて申し訳ない。

(森重委員)

6月17日に矢野中学校で、いきなり授業中にJアラート訓練が鳴った。矢野中学校にその情報が知らされておらず、生徒たちがその音を聞いて、災害のことを思い出し、気持ちがそぞろになったり、気分が悪くなった子もいた。海田町との連携があるならば、事前に情報が欲しかった。

また、6ページの防災のまちづくりの新規事業で、防災リーダーの育成や防災訓練の実施がある。海田町における自主防災の取組で、夏休みに海田小学校の体育館で、1泊2日の防災キャンプを行い、段ボールのベッドの作り方や、段ボールの仕切りの作り方を、子どもたちも含めて親子で体験している。そうした訓練の実施を検討してもらいたい。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

1点目のJアラート訓練については、森重委員が言われたとおり、本市においては屋外の放送は無かったが、海田町では屋外に放送が流れ、隣接する矢野中学校の子どもさんが不安がられたと、地元等から同様の意見をいただいている。これは、行政間の調整不足であり、今回の意見も踏まえて、今後は特に連絡を密にしたいと思っている。

2点目の防災キャンプについては、新規事業のモデル地区の取組として、子どもを対象にした、実際の避難所生活を行う防災訓練の実施を計画している。

さらに、矢野東の幸崎地区では避難所が海田町福祉センターとなっており、先般、海田町全域で行われた防災訓練の実施に併せて、海田町と一緒に防災訓練を行った。

(中島委員)

議事資料4の3ページの身近な課題についての(3)の中に、交通手段を持たない世帯というのがあるが、書かれている内容がほとんど買い物となっている。買い物だけではなく、「生きがいにつながるようなものにも参加したい。」という方もおられると思うので、こういった方の支援ができないかと思う。例えば、「高齢者は免許証を返しなさい。」とテレビで毎日言っているが、免許証を返した後の対応を、もっと細やかにできないかと思う。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

単なる交通手段という観点ではなく、もっと幅広く生きがいという観点で考えてはどうかということで御意見をいただいたので、幅広く大きな視点で、身近な課題として整理し、次回に示させていただければと思う。

(事務局 山本安芸区長)

アクションプランにおける身近な課題についての表現は、米谷課長が言ったように、買い物難民だけに特化した書きぶりになっているので考えさせてもらう。

中島委員の意見は貴重な意見で、地域の支え合い事業につながってくる。そういう視点、取組をこのアクションプランの中で、既存の事業でぶら下げられるものがあれば、支え合いといった視点のものをぶら下げたり、新たな事業として取組を提案していただき紹介させてもらうということに対応させていただく。

(池本座長)

現状と課題ということで、私もいろいろな話を聞く中で、深刻なことも出つつあると考えている。例えば矢野で、「やのまち一寸太助の会」というボランティア団体は、当初は高齢化が進んだ矢野団地で交通の便が悪いということから、自主的なタクシーのようなコミュニティ交通を検討したが、実現は難しく断念し、日常生活の中で面倒な草むしりや墓の掃除を引き受ける別の事業を始めた。また、廿日市では、地元のスーパーが移動販売を初めて実施するところが出てきている。私は東京に実家があるが、大都会のど真ん中でも交通の不便さが問題になってきており、東京のスーパーの中には何十年も前から移動販売車が団地の中をめぐり、今でもその需要は途絶えていない。

そういった取組事例や経験を地元の方に説明しながら、何か地元の中で取り組んでいけることがないか、あるいはそのための協同労働の中でもよいかと思うが、事業化を進めるということの可能性を追求していくことが必要だ。

安芸区ではなかなか出てこないと思うが、いわゆる「貨客混載」という、広島市内にある店で商品の在庫がなくなってきたら電話等で連絡して、数時間に1便という細かい単位で在庫を補充することができる仕組みを、芸陽バスが運行する竹原と広島を結ぶ高速バスで始めたようだ。

安芸区内では、船越と阿戸では状況が違い、阿戸はバスの便も少し悪くなっていると思う。そういった地域の情報や具体的な要望を既に集めておられると思うので、それを事例集みたいな形で提供してもらえればいいのかと思っています。

いろいろな話があるが、ここでは身近な問題をどのように整理し、その上で具体的な課題に展開していくことになると思う。

もう一点、アクションプランは文章だけではなく、もう少し図式化したほうがわかりやすい。場合によっては、文章は文章として整理した上で、別に概要版やパンフレットを作らざるを得ないかもしれない。

(事務局米谷地域起こし推進課長)

座長から幅広い視点で、地域の多種多様な意見や要望があるので、そういったものを反映すべきだという大きな宿題をいただいた。また、アクションプランの記載方法については、図式化したほうがわかりやすいとのご意見をいただいた。図や写真等があるほうがよりわかりやすいので、全市のバランスを調整した上で提示させていただく。

(稲垣委員)

立場的には倉増委員が発言したほうが良いかと思うが、私の個人的な思いは、産業の発展方向を考えると、地域の子どもたちがその地域の企業に勤めるのが理想的な地域だと考えている。良い人材がせっかくその地域で育ったのに、よそに働きに行くのはすごく残念だし寂しく思う。

また、地元で頑張っている企業への支援として商工会があるが、行政界をまたいでおりうまく機能していない。市や区という区切りで考えるのではなく、買い物等は周辺も含んだ地元でお金を落とすような仕組にしないと、どんどん寂れていく一方だと思う。区役所で商工関係、経済面についての施策は難しいと思うが、文言として何か強いものが欲しいと思う。まちづくりはまちづくりで、それは良いが、経済活動がないと、この世の中は絶対回っていかないと考えているので、経済活動に関するものも、まちづくりの方向性の中に入れるべきだと考える。

(事務局 山本安芸区長)

経済活動の話は、市全体の総合計画の中で、中小企業の支援や活性化、商店街の振興という項目で掲げていけるものもある。御承認いただいた4つの安芸区のまちづくりの方向性の中で、例えば、東部地域をつなぐ活性化の中で盛り込んでいくことなどを検討させていただく。

(西佐古委員)

防災と交通の観点で、海田町を車で走っていると、海拔の標示を見かけたり、溪流の上流部まで行くと、危険溪流という標示を見かける。上流部だけではなく下流側にも、溪流の危ないところは下流側の人が見ることができるような案内表示があると良いと思う。

また、海田町のはなみずき通りを走ると、道路に赤と白色の横断歩道があり、目的はよくわからないが、単純に目立つような気がする。費用はかかるが、信号機をつけるよりも、取り組み易い内容である。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

防災、防犯について、新たな取組のメニューとして貴重な意見をいただいたので、検討させていただく。

ウ まちづくり活動に関する効果的な行政支援について

(池本座長)

事務局から具体的な行政支援の例示として、小さなエリアマネジメント、協同労働について説明していただいた。委員の皆さんが、事業のアクションプランの実施主体として、どのような立場で、どのような具体的な活動が展開できるかを、単なるアイデアにとどまらず、これまでの現状とか、取組、経験や蓄積を踏まえた今後の展開方向として、実現可能な具体的なアイデアを提示していただきたいというのがこの議題の要旨である。

(金子委員)

規制緩和に伴う有効活用で、ここに書くほどでもないが、区役所の屋上をビアガーデンにできないか。

(池本座長)

ビアガーデンという特定のことでなくても、県庁、広島市役所にも食堂があるし、首都圏でいえば、神奈川県庁や東京都庁は有名な観光地と言っていいぐらいレストランがあり、アルコールも提供されているので、地域活性化を目的としたビアガーデンのイベントも、可能性はあると思う。

(松田委員)

地域資源を活用した取組の提案について、我々も常日ごろ関係するようなイベントを多少なりともやっている。ただ、我々の場合、人が不足しており、「実績報告を出すのが面倒だ。」とか、「役所へ出す資料を作成するのが面倒くさい。」と言って、助成金とか補助金をもらいたがらないため、補助金等を活用した取組ができない。

今、事務局から依頼のあった取組について、分類の中で、「既存の制度を利用」又は「新設」「見直し」と書いてあるが、こちらが提案して、区でいいよと簡単に取り入れてもらえればよいが、単に地元提案させたまま取り入れられないのはどうかと思う。もっと区のほうで「こういったところは少しカバーしたから出してください。」とか「こんなことをやりましょう。」と示してもらえれば、みなさんも提案しやすいということを理解していただきたい。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

地元が動きやすく、提案しやすいように十分考慮させていただく。

(森重委員)

あくまでも理想論で話をさせていただくが、過疎地の鳥取県や島根県では、地元の企業や観光DMOと手を組んで、大都会の大阪や東京に地方フォーラムという形で行って、県をPRされている。鳥取、島根も、いわゆるシャッター街通りという形になっており、例えば大阪の方や東京の方に、働き口や借家を準備して、「来てから何かやってみませんか。」と空き店舗を紹介し、その土地の良さを知っていただくということを行い、成功しているという話を聞いたことがある。

今から、空き家がものすごく出てくると思うので、行政と商店街や商店の持ち主が手を組んで、「使われていないのであれば、ちょっと安く、Iターンの人たちに貸してみませんか。」という形のフォーラムができないかと思う。

それから、若者たちの中には、都会にいるからいいのではなく、逆に、何もない田舎に行って、何もないから自分のやりたいことが何でもできると考えている若者がたくさんいるので、そういったPRを、是非とも広島市や広島県で考えてもらえれば活性化につながると思う。

(事務局 山本安芸区長)

大きな動きまでとはなっていないが、研修を受けて技術を身につけ、コマツナやハウレンソウを作って、なりわいとしてやっていくという「ひろしま活力農業経営者育成事業」をやっており、家については地元の空き家に移り住んでもらっている。阿戸町で「ひろしま活力農業経営者育成事業」を活用した元J2選手の岡崎氏が、コマツナを作ってくれている。

そういう人たちが東京へ行き、「ひろしま活力農業経営者育成事業」をPRするという取組を、費用は行政が負担して展開しているので、これを参考にしていただき、新たな提案があれば出して

いただければ非常にありがたい。

(池本座長)

私も以前から国の事業で関わってきた。鳥取や島根では、早くから県が外郭団体をつくって、いわゆるI J Uターン、それを移住と読ませる、移住促進事業を展開している。

秋田県も、20年以上前から、Aターンという言葉を使っていた。これらの事例の多くは、仕事と暮らしと子育てを総合的に提供するために、3日とか1週間、1か月、3か月、半年、1年、2年という非常に細やかな体験プログラムで、秋田への移住を進めている。

広島県も、そういうタイプの機関を作って、たくさんの事例が生まれており、2、3日前のニュースでは、大崎上島で移住者が大変増えてきたと紹介されていた。

実は、東京でも檜原村という村が都内にあり、結構、都心の人たちがそこに移り住むことが進んでいる。

広島市内でも移住者が随分いらっしやると実感しており、移住の決め手となるマッチングにおいて、行政の役割が非常に重要であると感じている。

それからもうひとつ、参考資料のパンフレットの「60歳からの輝き方」で紹介されている協同労働モデル事業の16番目の事例の「モンドラゴン」は、広島土砂災害で、その復興と災害の伝承ということで地域にできた団体であるが、若い人たちや地元の町内会の方々が重要な役割を果たしてきた。若い人がかかわっている「モンドラゴン」は、広島では先進的な協同労働のあり方として紹介されており、安芸区でも、若い人がどのように関わっていけるかということ意識した、新しいまちづくりの組織や仕組、新たな事業化ができる団体づくりを検討していただければと思う。

(金月副座長)

先ほど西佐古委員から、ゆずりあいゾーンの話があった。上瀬野の一貫田では、旧山陽道が通っており、朝のラッシュで信号の無い交差点に車が停まるので渋滞が起こる。区役所にゆずりあいゾーンをつくっていただきたいとお願いをしたところ、早速、警察と協議し、短時間のうちに対応していただいた。

また、中原地区に架かっている一貫田橋が災害で陥没し、約70世帯が子どもを瀬野の学校や駅へ送るために迂回している。その際利用する何本かの小さい橋は、午前7時から8時半まで進入禁止であることを私が知らずに、先日それを聞き、海田警察にお願いし通行許可証を出してもらった。

各委員の皆さんも、そういうことがあると思うが、なるべく早く、積極的にお願いするということが大切なので、心がけていただきたい。

それから、池本座長の国際学院大学は、来年から生徒の募集を停止して2023年に閉校するという新聞記事を見て驚いた。かつて、広島大学が東広島に移転し、我々は大変苦い経験をしている。大学をどうこうすることはできないが、区長さんを中心に、閉校後の対応をどのようにしていくのか、若者がどういう形でどうなっていくのか、安芸区民にとって大変なことなのでよろしくお願いしたい。

(事務局 山本安芸区長)

国際学院大学の件は、私も昼のNHKニュースで知って驚いた。区役所もまだ詳しい話を大学から聞いていないので、時間をとって説明を受けることを申し入れている。

学生が、近辺で下宿されていると思うし、地元の企業にどれだけ学生さんが働いておられるかということも、いろいろ聞かせていただき、何ができるかを一緒に考えた上で、できることはさせていただこうと思っているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

(池本座長)

来年度の募集停止と、4年後の閉校ということが記者発表で伝えられたが、具体的にどうするかということについては、我々にもまだ何の説明もないという状況だ。私立大学なので、理事会がそういう決定をしたということが、記者発表された。今、学内でいろいろなやりとりがされているところで、これから新たな方針が公表されると思う。

金月副座長が御心配のとおり、まさに「せのっぴー」も、私の学生がデザインし提案したものを採用していただいた。その他の地域でも、いろいろな形で学生が関わらせていただいていたという経緯がある。今でも実際に関わっている学生がいるので、どう続けていけるのかと思う。野球部はそこそこ強いチームだが、1年生が4年生になったときに1学年だけでチーム編成できるのかと、いろいろな不安を抱えているところだ。

若い人の位置づけということでの大学としての役割もあり、若い人がたくさんいるので、まだまだ関わらせてもらえると思う。そういった方々も含めて、新しいまちづくり、地域づくりに取り組んでいく受け皿を、皆様方で考えて、作っていただきたいと考えている。

御心配、御迷惑をおかけするが、当面は引き続き、お世話していただければと思っているのでよろしくお願ひしたい。

その他、御意見がなければ、「地域課題の解決に向けた取組・地域資源を活用した取組について」、新しい提案をお願ひして本日は閉会する。